

## 変更点一覧

### ランクの変更

	種名	ランク変遷	変更理由	
哺乳類	ニホンアナグマ	C-D-C	分布域変化の検討結果による	
	ニホンザル	D-D-C	アカゲザルとの交雑の進行による	
鳥類	アカアシシギ	D-D-B	近年、個体数が減少したため	
	アカコッコ	C-C-A	近年、記録が途絶えたため	
	イソシギ	B-B-A	近年繁殖記録が得られないため	
	ウズラシギ	無-C-B	近年、個体数が激減したため	
	オオワシ	C-C-B	近年、記録が少なくなったため	
	オジロワシ	C-C-B	近年、記録が少なくなったため	
	キビタキ	B-B-A	繁殖地の環境の改変が進行しているため	
	クイナ	A-A-X	繁殖記録が途絶えたため	
	コミミズク	B-B-A	近年、個体数が減少したため	
	シラコバト	C-C-B	近年、記録が少なくなったため	
	チュウシャクシギ	無-D-C	近年、個体数が減少したため	
	チョウゲンボウ	C-C-D	観察記録が増加したため	
	ツミ	B-B-C	個体数が増加したため	
	トウネン	無-C-D	観察記録が増加したため	
	トビ	C-C-D	観察記録が増加したため	
	トラツグミ	D-D-A	繁殖地の環境の改変が進行しているため	
	ビロードキンクロ	D-C-B	個体数が少ないと推定されたため	
	ベニアジサシ	C-C-B	記録が少なくなったため	
ヨタカ	A-A-X	繁殖記録が途絶えたため		
爬虫類	クサガメ	C-C-情報不足	外来種の可能性が指摘されているため	
	スッポン（ニホンスッポン）	X-X-情報不足	生息情報が寄せられているが、飼育個体由来の可能性があるため	
	ニホンイシガメ	B-B-A	アライグマによる捕食圧が高まっているため	
両生類 魚類	トウキョウサンショウウオ	B-B-A	アライグマの捕食及び生息地の悪化	
	アカヒレタビラ	C-C-B	水域の急激な人工化、水質悪化、維持管理作業不足などによる本種と産卵床であるイシガイ類の減少の進行	
	アブラハヤ	C-C-B	水域の人工化、周辺陸域の環境悪化などによる生息環境悪化の進行	
	カマツカ	無-無-B	水域の人工化、周辺陸域の環境悪化などによる生息環境悪化の進行	
	ギンブナ	無-無-D	水域の人工化、水域悪化、維持管理作業不足などによる生息環境悪化の進行	
	クルマサヨリ	無-無-C	水域の人工化、水域悪化、周辺陸域の環境悪化などによる生息環境悪化の進行	
	スナヤツメ	B-B-A	丘陵地や平野部の湧水を伴う清涼な流れの消滅、人工化、環境悪化などの進行	
	タナゴ	B-B-A	水域の急激な人工化、水質悪化、維持管理作業不足などによる本種と産卵床であるイシガイ類の減少の進行	
	トビハゼ	A-A-B	東京湾内の複数の河口泥質域への二次的生息域拡大による絶滅危険度の低下	
	ナマズ	無-無-B	水域の人工化、維持管理作業不足、周辺陸域の環境悪化などによる生息環境悪化の進行	
	ニゴイ	無-無-C	水域の人工化、周辺陸域の環境悪化などによる生息環境悪化の進行	
	ヤリタナゴ	C-C-B/C	水域の急激な人工化、水質悪化、維持管理作業不足などによる本種と産卵床であるイシガイ類の減少の進行	
	昆虫類	アオヘリアオゴミムシ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。生息個体数が少ない
		アカヘリサシガメ	C-B-X	1980年代前半以降記録がないため
		アサマイチモンジ	A-B-C	九十九里平野を中心に広く生息することが確認され個体数も少ない
アダチアカサシガメ		A-A-X	新種記載以降記録がないため	

種名	ランク変遷	変更理由
アラメエンマコガネ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。記録は銚子市のみである
イシワタマダラカゲロウ	無-無-D	人為的環境変化に伴う県内生息域の減少
イソジョウカイモドキ	D-D-C	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。シロヘリハンミョウのように分布が限定される
イトアメンボ	C-B-A	同定確実な記録がわずかであるため
イネネクイハムシ	無-無-D	生息個体数が少ない。生息地点数も水辺環境の悪化により、少なくなる恐れがある
ウスズミケンモン	X-X-A	市原市で生息確認(藤平未発表)
ウスミモンキリガ	C-C-D	調査進展により分布地域拡大
ウmanoオバチ	無-無-C	近年県内の数力所で確認された。各地とも確認個体数は少ない
エゾトンボ	A-A-X	20年以上記録なし
オオイトトンボ	D-D-B	産地数減少顕著(現存産地10未満?)
オオクチブトカメムシ	無-B-X	2000年の発見以降記録がないため
オオコブスジコガネ	C-B-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。生息地点数が少ない
オオツノカメムシ	無-無-C	千葉県で最近発見されるようになったため
オオヒメゲンゴロウ	無-無-C	生息地点数が少ない。記録は栄町、四街道市、千葉市、佐倉市のみである
カギモンキリガ	D-D-無	暖温帯希少種として把握すべき
カクモンハラブトハナアブ	無-無-C	白井市より記録されたため。県内における生息地は局所的である可能性があり、開発などによる生息地の減少が懸念される
カズサヒラタゴミムシ	C-C-B	生息地点数が少ない。夷隅市、東金市、長南町のみである
カタツムリトビケラ	無-無-C	探索するも棲息確認地点が数地点と極めて少ないため
カルマイツヤタマヒラタアブ	無-無-C	市川市、流山市、我孫子市、白井市から記録されたため。県内における生息地は局所的である可能性があり、開発などによる生息地の減少が懸念される
カワムラモモブトハナアブ	無-無-B	印西市よりあらたに記録されたため。全国的に記録が少ない。台地における開発が、本種の生息地を減少させる可能性が高い
キアシハナダカバチモドキ	C-C-B	情報不足ではあるが(近県情報考慮)分布しているとしてもかなり極限されていると考えられる
キトンボ	A-A-X	10年以上記録なし
キバネマグソコガネ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。生息地点数が少ない
キバラヒトリ	無-無-X	鎌ヶ谷市(1955矢野)の記録以来再記録されない。比較的冷涼な草原環境に生息する種。
キヒゲアシブトハナアブ	無-無-B	我孫子市よりあらたに記録された。全国的に記録は少ない。県内における生息地は局所的である可能性が高く、開発などによる生息地の減少が懸念される
キベリマルクビゴミムシ	C-C-B	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。生息個体数が少ない
キボシチビコツツゲンゴロウ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。記録は千葉市のみである
キボシツツゲンゴロウ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。記録は天津小湊町、君津市のみである
キュウシュウスジヨトウ	無-無-C	木更津市畔戸(藤平2004)生態不明だが汽水域に生息
キンイロネクイハムシ	無-無-C	記録は千葉市、白井市のみである。ネクイハムシ類は水辺環境の悪化により生息地点数、生息個体数が少なくなりつつある
グマガトビケラ	無-無-C	グマガトビケラの生息する、細かい砂礫を底質とする湧水環境の悪化が著しいため
クモガタヒョウモン	B-B-A	2002年以降記録なし
クロツヤコオロギ	A-A-B	県南部に生息地が少なからず発見された。
クロモンマグソコガネ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。記録は習志野市のみである
コウライクモカリバチ	C-C-B	情報自体(正確な)は少ないが、私の知る限りその後、千葉県内より分布確認していない
コクロナガオサムシ (トウホククロナガオサムシ)	無-無-C	生息域が狭い。千葉県北部の限られた範囲の地域(小見川町や千葉市など)に分布
コバンムシ	A-X-A	26年ぶりに再発見されたため
コブアリノスアブ	無-無-A	我孫子市と白井市から記録されたため。台地における開発が、本種の生息地を減少させる可能性が高い。

種 名	ランク変遷	変更理由	
サヌキキリガ	C-C-D	調査進展により分布地域拡大	
シンテイトビケラ	無-無-X	過去の確実な棲息状況が確認できる文献が見つかったため。探索をかけるが棲息状況なし	
ズイムシハナカメムシ	無-C-A	全国的、千葉県でも希少種であるため	
スナハラゴミムシ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。生息個体数が少ない	
セグロトビケラ	C-C-B	この10年間の確実な記録がないため	
セスジイトトンボ	D-D-C	産地数減少顕著(現存産地20未満)	
セマルオオマグソコガネ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。記録は我孫子市のみである	
ダルママグソコガネ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。記録は市川市のみである	
チバヤドリコハナバチ	B-B-C	近年の調査で分布確認地がひろがったため	
チビアオゴミムシ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。生息地点数が少ない	
トダセスジゲンゴロウ	C-C-B	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。記録は千葉市と栄町のみである	
ナチキシタドクガ	D-D-無	暖温帯希少種として把握すべき	
ナベブタムシ	無-無-A	千葉県から再発見されたため	
ニホンヒラタタマバチ	無-無-C	県内での分布は本誌が初記録。寄主が少ないため、かなり稀と思われる	
ハナダカカメムシ	D-無-D	普通種だが記録例が少ないため	
ハマオモトヨトウ	D-D-無	暖温帯希少種として把握すべき	
ヒトリガ	無-無-D	1990年以降再記録されない。比較的冷涼な草原環境に生息する種	
ヒメキイロマグソコガネ	無-無-A	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。記録は高宕山のみである	
ヒメジュウジナガカメムシ	無-無-D	最近発見されたが今後も記録が増えると予測されるため	
ヒメハルゼミ	D-C-D	最近でも多くの記録がなされているため	
ベニモンマキバサシガメ	C-C-X	1970年代前半以降記録がないため	
マガリキドクガ	D-D-無	暖温帯希少種として把握すべき	
マガリモンハナアブ	無-無-B	白井市より記録されたため。全国的に記録は少ない。県内における生息地は局所的である可能性が高く、開発などによる生息地の減少が懸念される	
マダラコガシラミズムシ	無-無-B	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。生息個体数が少ない	
マツムシ	C-C-D	Dランク相当と判断される数の生息地が多く発見された。	
マルガタゲンゴロウ	無-無-B	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。生息個体数が少ない	
ミイロツメボソクモバチ	無-無-C	今世紀に入って北総地域で分布が確認された。発生個体は各地とも少ない	
ミスジキリガ	C-C-B	再調査を重ねているが、1960年代以降記録できない。	
ミツトゲヒメシロカゲロウ	無-無-D	国内、県内分布が極限	
ミヤケジマヨトウ	無-無-C	木更津市畔戸(藤平2004)生息不明だが汽水域に生息	
ミヤマチャバネセセリ	B-B-C	新たな地域での出現が報告されている	
ムネモンアカネトラカミキリ (アマミトラカミキリ)	D-D-無	国内移入種の可能性がある	
モートンイトトンボ	B-A-B	現存産地6以上10未満と判明	
ヤクシマドクガ	D-D-無	暖温帯希少種として把握すべき	
ヤスマツアメンボ	C-B-X	1980年代後半以降記録がないため	
ヤマトモンシデムシ	D-C-B	環境省のレッドリスト(2007)にランクされたことによる。生息個体数が少ない	
リュウキュウチビスズ (ヤマトチビスズ)	A-A-B	利根川下流の河川敷にも広く分布することが判明した。	
ルリクチブトカメムシ	無-無-D	千葉県での記録例が少ないため	
ワレモコウチュウレンジ	無-無-C	2006年、初めて県内で分布が確認された。既知の分布地(本州)はほとんどが産地であった	
クモ類	シッチコモリグモ	無-無-C	湿地の減少による影響大
十脚甲殻類	オオユビアカベンケイガニ (クシテガニ)	無-無-A	新たに小櫃川河口干潟で発見された

種名	ランク変遷	変更理由
カワスナガニ	無-無-A	新たに南房の丸山川で発見された
コンジテンナガエビ	無-無-A	新たに南房の坂田川で発見された
トゲアシヒライソガニモドキ	無-無-A	新たに南房の丸山川で発見された
<b>貝類</b>		
イボキサゴ	B-B-C	小櫃川河口干潟で、大量発生したため
イヨスダレ	無-X-B	新たな定着群が認められ、その動態を見守る必要があるため
オチバガイ	X-X-B	新たな定着群が認められ、その動態を見守る必要があるため
クダマキマツムシ	無-無-A	検討の結果、減少傾向が顕著なため対象とした
ケマンガイ	X-X-B	新たな定着群が認められ、その動態を見守る必要があるため
コベルトカニモリ (コオロギ)	A-A-B	新たに生息が確認されたため
シオツガイ	無-C-B	この10年間、確実な生息がきわめてまれなため
ツボミ (環境省: ツボミガイ)	B-B-A	この10年間、確実な生息がきわめてまれなため
トウキョウヒラマキガイ	D-D-B	近年、記録が減少しているため
ヒラマキミズマイマイ	D-D-B	近年、記録が減少しているため
マシジミ	無-C-A	外来種タイワンシジミとの競合?が各地で生じ、土着のマシジミがほとんど確認されないため
ミクリガイ	無-B-C	近年、九十九里で回復傾向にあるため
ムラサキガイ	X-X-B	新たに内房域に定着した可能性が高いため
モノアラガイ	D-D-C	この10年間、確実な生息がきわめてまれなため
モロハタマキビ (←ヘソカドタマキビから変更)	無-D-C	この10年間、確実な生息がきわめてまれなため
ヤマトシジミ	C-C-B	外来の類似種が各地で確認され、土着群はほとんどみられないため

## 和名の変更

	レッドリスト2006年改訂版	レッドデータブック2011年改訂版	ランク	掲載ページ
<b>哺乳類</b>				
	ニホンカワウソ	カワウソ	X	20
	アシカ	ニホンアシカ	X	21
	キツネ	アカギツネ	B	22
	アナグマ	ニホンアナグマ	C	24
	ジネズミ	ニホンジネズミ	D	25
	テン	ニホンテン	D	27
<b>爬虫類</b>				
	ニホンカナヘビ	カナヘビ	D	137
<b>昆虫類</b>				
	カワトンボの地域個体群	アサヒナカワトンボの地域個体群	A	235
	スズキクサカワゲラ	クサカワゲラ属の一種	A	245
	ヤマトチビスズ(リュウキュウチビスズ)	リュウキュウチビスズ(ヤマトチビスズ)	B	252
	キイロネクイハムシ	ミナミキイロネクイハムシ	X	269
	スゲハムシ	キヌツヤミズクサハムシ	B	289
	ウシヅラヒゲナガゾウムシ	エゴヒゲナガゾウムシ	C	302
	ムツボシベッコウ	ムツボシクモバチ	A	316
	スギハラベッコウ	スギハラクモバチ	C	323
	ハクサンツヤバチ	ハクサンツヤアナバチ	C	324
	ヤマトガガンボモドキ	ガガンボモドキ	C	327
	シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ	D	328
<b>貝類</b>				
	オオウヨウラク	オウウヨウラク	B	461